

所属長	所属科長	事務(局/部)長
		

令和4年 3月 25日

理事長 殿

学 長 殿

令和3年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症
対策支援プロジェクト研究報告書

標記の件に関しまして、別紙のとおり報告いたします。

また、本研究報告の内容は、近畿大学学術情報リポジトリ (KURepo) に公開する旨、承諾いたします。

1. カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 研究 <input type="checkbox"/> 開発・提案 /カテゴリーNo.26
2. 企画題目	コロナ禍におけるオンライン相談の実態調査と対応態勢の整備

研究代表者

所 属 : 総合社会学部職・氏名 : 教授・小泉 隆平

令和3年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症 対策支援プロジェクト研究報告書

企画題目	コロナ禍におけるオンライン相談の実態調査と対応態勢の整備
研究者所属・氏名	研究代表者：総合社会学部・小泉隆平 共同研究者：総合社会学部・本岡寛子、奥野洋子、直井愛里、大対香奈子 メディカルサポートセンター・長田道

1. 研究、開発・提案 目的及び内容

コロナ禍にあって心理臨床のさまざまな領域でオンライン相談が導入されつつあり、心理臨床・教育相談センターにおいても早期にオンライン相談の態勢を整え、実習に組み込んでいくことが望まれる。現状では潜在的なオンライン相談のニーズに応えきれていない。本プロジェクトは、オンライン相談に関わる実態調査からその意義や限界について知見を得ることで、地域で信頼される相談室として社会貢献することを目的としている。

2. 研究、開発・提案 経過及び成果

近畿大学心理臨床・教育相談センター（センター長、小泉隆平）では、小泉隆平が、令和2年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症対策支援プロジェクト「自宅待機下におかれた子どもたちに対する心身ケア支援医療チーム派遣プロジェクト」（研究代表者、医学部小児科学教室杉本圭相主任教授）に共同研究者として参画し、近畿大学心理臨床・教育相談センターにおいて小児科から紹介されたコロナ禍で自宅待機状態にある子どもたちや保護者に既存の機器を用いてオンラインで相談できる最小限の態勢を整えた。

また、「ひよこクラブ」（ベネッセコーポレーション発行）2021年4月15日号に近畿大学心理臨床・教育相談センターの広告を掲載し、相談業務の全国的な展開の端緒とした。

本プロジェクトによって、オンライン相談用のPC2台と周辺機器を本格的に整備することができた。併せて、センターではオンライン相談に対応する面接承諾書、相談員のマニュアルなどセンター内の事務的な書類を整備し、全ての面接室で有線LANの設置工事を行なった。加えて、センターの案内パンフレットを更新し、そこに折り込むオンライン相談の案内も印刷した。それらをセンター紀要と共に関係機関に年度内に送付する。本プロジェクトによって、対面相談だけではなくオンライン相談も行っていることを広報し、実施する態勢が整った。

一方、前述の令和2年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症対策支援プロジェクト「自宅待機下におかれた子どもたちに対する心身ケア支援医療チーム派遣プロジェクト」からの紹介相談ケースがなかったことや電子デバイスの納品の遅れによる機器の整備の遅れなどにより、コロナ禍での対面相談のニーズ、オンライン相談を選択したクライアントの特徴、オンライン相談を行うセラピストがもつ特有の困難、オンライン面接の限界と課題などについてまとめる作業は途上にある。

3. 本研究と関連した今後の研究、開発・提案 計画

本プロジェクトによって、オンライン相談を本格的に導入することができた。来所できる範囲を限定せず面接を受理できるようになった。全国レベルでの相談活動や国際的な相談活動にもつながる可能性が生まれた。

今後は、心理臨床・教育相談センターが保有するデータや心理臨床・教育相談センターで相談業務に携わる教員・相談員へのインタビュー調査をもとに、オンライン相談に関わる相談内容、相談員の対応方法などを従来の対面相談と比較しながらまとめる計画である。

4. 研究成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
近畿大学心理臨床・教育相談センター紀要	雑誌	令和5年3月

5. 研究、開発・提案 課題の成果発表等

来年度発行の「近畿大学心理臨床・教育相談センター紀要」に本プロジェクトの成果をまとめて発表する予定である。